

# Keiba Global Front Line



## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します

### 合田 直弘

17年のロンジン・ワールドベストジョッキーで、15年5月から継続している連勝が”22”に伸びている豪州の名牝ウインクス（牝6）の主戦を務めるヒュー・ボウマン（37歳）が、今月のこのコラムの主役である。1980年7月14日にニューサウスウェールズのダンドウで生まれたボウマンが、初めて馬の背に揺られたのは2歳の時だったという。ボウマン少年は、ドレッサージュ、ショウジャンピング、ポニーレース、馬車レース、ポロ競技など、両親がそれぞれは止める」と言ったロデオ以外の、馬に関わるあらゆるスポーツを経験した後、騎手を志した。

96年、生家に近いバサースト競馬場を拠点に見習い騎手としてデビュー。瞬く間に100勝以上を挙げた後、97年にシドニーの名門ロン・クイントン厩舎に移籍し、トップリーグに伸し上がるきっかけを掴んだ。

その名を全国区にしたのが、03年に巡り合ったエクシードアンドエクセルとのコンビだ。デインヒルが送り出したトップスプリンターに騎乗した彼は、ローズヒルのG2トッドマンS、ランドウィックのG2アッパンドカミングSなどを制覇。その実績が認められて、騎乗馬の質が更に向上。翌04年5月にデファイアーに騎乗してG1ドウムベンCを制して、G1初制覇を果すことになった。

08/09年シーズンを皮切りに、シドニ

ー地区のリーディングに君臨すること4回。通算で2000勝以上を挙げているボウマンの真骨頂と言われているのが、長距離戦で発揮する手綱さばきである。ペース判断、位置取り、追いつきのタイミングなど、抜群の冴えを見せる騎手というのが定評だ。

日本で初めて短期免許を受けて騎乗したのは、15年の11月から12月にかけてで、騎乗最終週にハートレーでG2ホープフルSを制し、日本の重賞を初制覇。16年は4月末から5月にかけての来日となった後、3度目の短期免許となった昨年11月、シヴアルグランでG1ジャパnCを制したことは皆様の記憶にも新しいところであろう。

冒頭でも記したように、ワールドランキング芝部門世界首位に座にあるウインクスの主戦を務めているのがボウマンだ。連勝のスタートとなった、15年5月のG3サンシャインコーストギニーズではフリー・キャシディ、15年9月のG2テオマークスSではジェームス・マクドナルドが騎乗したが、22連勝のうち20戦においてボウマンが手綱を握っている。

同馬を管理するクリス・ウォラー調教師の、ボウマンへの信頼がいかに厚いかがわかる出来事が起きたのが今月初めのことだった。

ウインクスの秋緒戦は、2月17日にランドウィックで行われるG2アポロSと発表

され、これを目標に調整も順調に進んでいた。

ところが、1月26日にシドニーのワウイクファーム競馬場で騎乗したボウマンが、第5レースで進路妨害を犯し、2月4日から14日までの騎乗停止処分を受け、なおかつその翌日にも、ニュージーランドのカラカ競馬場で騎乗した彼は、G3シテイオウオークランドCで進路妨害を犯し、ここでも8日間の騎乗停止となつて、制裁期間が2月22日まで延びてしまったのである。

異議申し立ての手続きをとつたものの、却下されてアポロSではウインクスに乘れないことが確定した時、陣営が下した決断が、ウインクスのアポロS回避であった。チーム・ウインクスにおけるボウマンの存在は極めて重要で、彼の手腕なくして連勝の継続は覚束ないと、クリス・ウォラーはウインクスの秋緒戦を3月3日のG1チッピングノートンSに変更することを決めたのである。

ウインクスがこの秋に予定されている3戦で従来と変わらぬ強さを見せた暁には、ロイヤルアスコットへの遠征が敢行される予定だ。トレーナーの信頼に応えるためにも、ヨーロッパを拠点に乗るという目標実現への足掛かりとするためにも、ウインクスの秋3戦でボウマンがどんな騎乗を見せるか、必見と言えそうである。